

アカテガニ



アカテガニは、森に住むカニとも言われ、水から離れて暮らすことのできる不思議なカニです。

小網代の森は、アカテガニが生きていくのに必要な海、川、森がつながっているのも、とても棲みやすい環境なのです。

斜面に無数にあいている穴は、カニ達のアパートです。アカテガニは斜面の小さな穴や岩の隙間に棲んでいます。

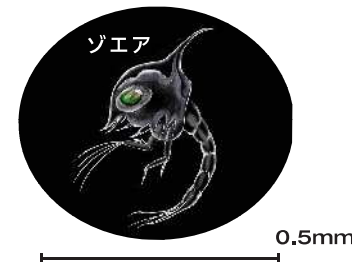
耳を澄ましてみると、「カサカサ」とカニ達の歩く音が聞こえますか？落ち葉の下や、木の上でも見ることができます。



神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター

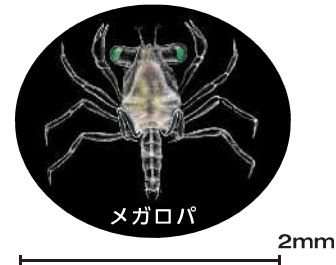


6月下旬から9月上旬に、おなかに卵を抱えた母ガニが、大潮の晩に海に下りて、幼生「ゾエア」を放します。それを「放仔」といいます。



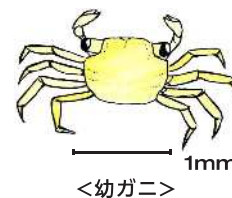
海に放たれた「ゾエア」は、足が4本しかなく、約1ヶ月間海を漂います。

何度も脱皮をして、ちがう形の幼生「メガロパ」になります。



「メガロパ」は、高速で泳ぐことができ、8月下旬から9月下旬頃に、真水のおおいのする岸边へと帰ってきます。

真水のある場所で脱皮を繰り返し、白っぽい幼ガニになります。



3～4mmくらいの幼ガニになると、水から離れた森で暮らし始めます。10月下旬から11月頃には冬眠に入ります。イラスト：江良弘光・美穂